

氏名： 池田 全之 (IKEDA Takeyuki)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
職名： 准教授  
学位： 博士 (教育学) / Doctor(pedagogy)  
専門分野： 教育哲学 / Educational Philosophy  
教育思想史 / History of the Theory of Human Formation  
E-mail： ikeda.takeyuki@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

教育哲学 / ドイツ観念論 / シェリング, フィヒテ / フランクフルト学派, ベンヤミン, アドルノ  
Educational Philosophy / German Idealism / Schelling, Fichte / Frankfurt school, Benjamin, Adorno

#### ◆主要業績

総数 (2) 件

- ・『『教育』ってなぜ必要なのか』(沼田裕之他編著『教育学 21 の問い』所収 pp.23 - 32), 福村出版, 2009年 2月
- ・翻訳: 「倫理学体系 第三部 道德性の進化論と社会倫理学の諸原則」『ディルタイ全集 第6巻 倫理学・教育学論集』, pp.156 - 188, 法政大学出版局, 2008年 12月

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

2008年度は、前年度に引き続き、「生命」の問題をめぐる人間形成論史を検討した。具体的には、昨年度は、前期ハイデガーの『存在と時間』にみられる「死」(生命の一回性)への考察を、デリダによるその解釈と対照させながら、ハイデガーの主張する「存在論的差異」の人間形成論としての意味を探究した。この成果を踏まえながら、2008年度は、従来型の教育観の原型としてのヘーゲルの弁証法的発想が孕む限界に対して、ハイデガーの考え方が示唆するものを検討した。そしてその成果を、教育原理の教科書である『教育学 21 の問い』において教育の必要性の観点からまとめた。

In 2008, I continued to investigate the problematics of the theory of human formation which argues on the significance of life-repect for building-up-humanity. Concretely speaking, I compared early Heidegger's thought about death, which emphasizes the one-timeness (Einmaligkeit) of individual life, with its interpretation accomplished by J. Derrida. And I investigated the value of Heidegger's idea of ontological difference for the theory of human formation. Last year relying on such result, I made clear the limit of Hegel's dialectical educational theory and examined what Heidegger's thought indicates in order to overcome this limit.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

2008年度は、学部段階の授業においては、フーコーの権力論、アドルノの非同一性の哲学、カントとシェリングの道徳思想、ベンヤミンの歴史哲学を、現代の教育問題と絡めながら概説した。大学院段階の授業としては、教育思想特論においては、ベンヤミン思想を中心に提起し、前期ベンヤミンの批評理論・翻訳論に見られる解釈術の特異性と、ベンヤミンの政治哲学をナチズムをめぐるフーコー、ヤスパーズ、アドルノの思想と対比させつつ論じた。また教育思想研究においては、フーコーの権力論に関する基本テキストを、初期の『臨床医学論』から晩年の『パレシア講義』までから抜粋し、その内容を解説した。

(For undergraduate course)

I treated outline of Foucault's Power theory, Adorno's theory of dialectic of enlightenment, Kant's and Schelling's ethic, and Benjamin's philosophy of history, relating these theory to the educational problems which we confront today.

(For graduate course)

I focussed on the Benjamin's thought. At first I discussed on the particularity of early Benjamin's theory on literary criticism and translation. And next, I commented on his political philosophy, making it converse with that of Foucault, Adorno and Jaspers.

In seminar, extracting Foucault's texts (Birth of clinic, Birth of prison, the lectures on governmentality, and those on Paressia), I explained the fundamental structure of his Power theory.

## ◆研究計画

2009年度は、これまでの成果を踏まえながら、生命と人間形成の問題をさらに考えて生きたいと思っている。具体的には、この問題を、近代的な人間観が確定され、当然現代思想に批判的に継承された、19世紀初頭のドイツ観念論段階に戻して再考したいと考えている。すなわち、西洋近代教育思想の原点にある、労働を介する外界との関わりに着目したヘーゲルの自己意識の形成観と相互承認思想の内実を押さえたうえで、同時期に展開された別様の脱中心的な人間形成観を、(ベンヤミンの先駆的な『ドイツ・ロマン主義論』を参照しながら)、ノヴァーリスなど初期ドイツ・ロマン主義者の断章に探りたいと考えている。

## ◆メッセージ

教育思想研究というと、難しいとか現実から遊離していると一般には考えられています。たしかに教育思想の研究の場合には、二次文献を参照しながら、地道に昔のテキストを読み進めることが基本になります。けれども、そうした読解も、現代についての先鋭な問題意識がなければうまくいくものではありません。古典的なテキストを使いながら「今」を考えることが大切なのです。ですから、自分の狭い関心にだけ捕らわれるのではなく、視野を広く持つようにしてください。